

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	名瀬市立朝日小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	27
児童数	104	109	88	98	89	98	9	595	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を定着させるための指導方法・指導体制の改善  
～算数科の指導を中心に～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

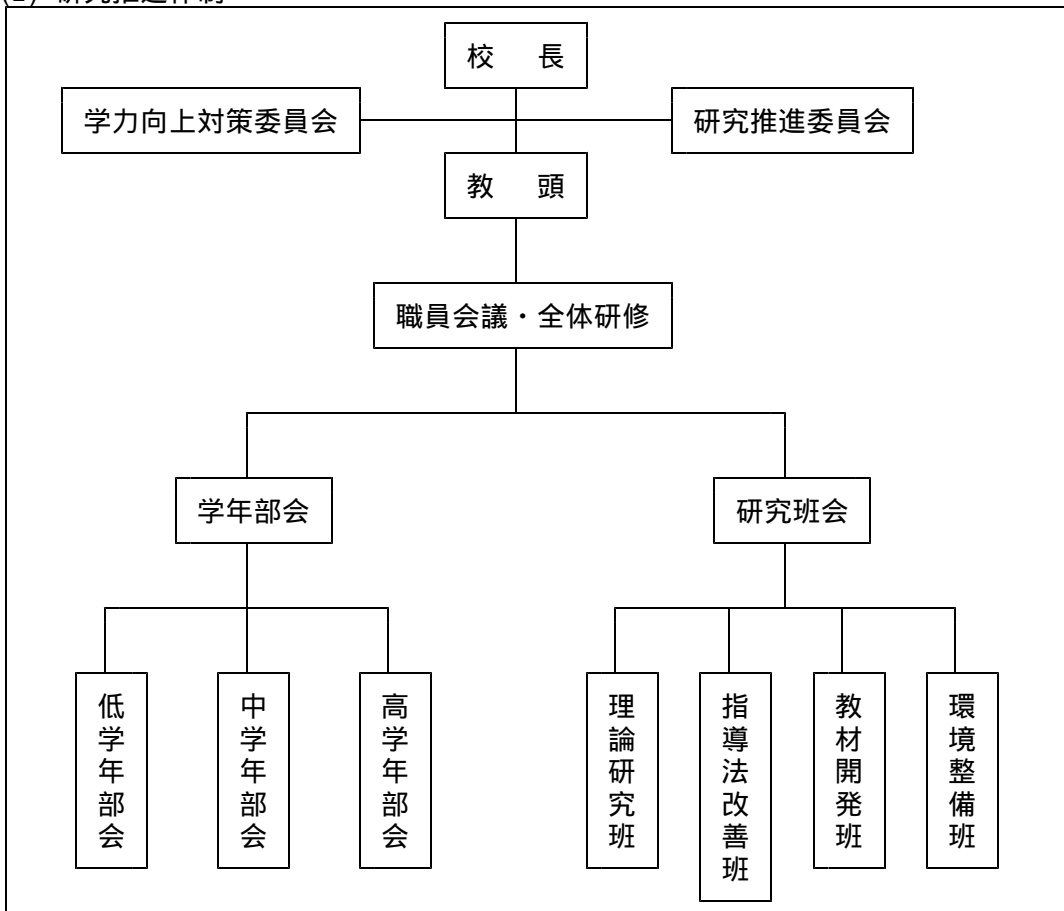
全学年・算数  
児童の理解の状況に個人差がみられると共に、基礎的・基本的内容の定着が不十分であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を定着させるための指導方法・指導体制の改善 ～算数科の指導を中心に～</p> <p>仮説 ・仮説1： 指導に生きる評価を工夫し、問題解決的な学習過程を設定し、指導方法・指導体制の工夫・改善を図るならば、確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。 ・仮説2： 分かる授業を心がけ、児童の学習意欲を持続しつつ、定着を図る場を授業や授業以外で設けるならば、確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。 ・仮説3： 家庭・地域との確実な連携を図り、共同態勢で家庭学習を推進するならば、確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 仮説1について 様々な指導方法・指導体制の実践 ・ 担任一人による指導の在り方 ・ TT指導 ・ 少人数指導 ・ 習熟度別指導 ・ 一部教科担任制 指導方法・指導体制の検証 ・ 効果的な指導場面、指導内容 ・ 発達段階に応じた指導方法・指導体制の系統化 指導に生きる評価の工夫 ・ 自己評価カードの作成と活用 ・ 評価規準に則った評価</p> <p>(2) 仮説2について 分かる授業の実践 ・ 授業改善のための共通実践事項 ・ 「できた・分かった」が体得できる時間の確保 授業における定着を図る場の確保 ・ 地区重点施策「学力定着ラスト15分の創造」による授業改善 学力を向上させるための共通実践 ・ 日課表における位置づけ(読み・書き・計算) 「朝日っ子タイム」「ブックタイム」</p> <p>(3) 仮説3について 「家庭学習の手引」作成 児童・保護者の意識調査 学級PTAや家庭教育学級の充実(保護者への説明, 広報活動推進) 学力向上推進協議会の推進</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」を定着させるための指導方法・指導体制の改善 ～算数科の指導を中心に～</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説1： 指導に生きる評価を工夫し，問題解決的な学習過程を設定し，指導方法・指導体制の工夫・改善を図るならば，確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。</li> <li>・仮説2： 分かる授業を心がけ，児童の学習意欲を持続しつつ，定着を図る場を授業や授業以外で設けるならば，確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。</li> <li>・仮説3： 家庭・地域との確実な連携を図り，共同態勢で家庭学習を推進するならば，確かな学力が定着した児童を育成することができるのではないかと。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 仮説1について</p> <p>指導方法・指導体制の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任一人による指導の在り方 ・ 習熟度によらない少人数指導</li> <li>・ 習熟度別少人数指導 ・ 一部教科担任制</li> </ul> <p>指導に生きる評価の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価システムの確立（評価方法，自己評価能力）</li> <li>・ 評価補助簿（チェック表）の活用</li> </ul> <p>(2) 仮説2について</p> <p>学習過程，問題解決的な学習の検証 定着を図る場（題材の終末時）の検証</p> <p>(3) 仮説3について</p> <p>学習環境の見直し 児童・保護者の意識調査 広報活動の推進</p>

(2) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1年次は、手探り状態での取組であったため、それぞれに於ける各種のデータの整理が不十分なため成果を客観的データで示すまでにはいたらなかった。  
 しかし、授業に少人数指導や習熟度別学習を導入したことにより、児童は問いかけに対して、教え合う場や質問の場がより多く見られ、授業に対する意欲が感じられるようになってきた。

少人数指導について

- 1学級33～34人が、少人数での再編成で16～17人となり、児童の学習活動の様子がこれまで以上に見えるようになった。また、児童一人一人にかかわる時間や回数も増え、個に応じての指導や支援が可能になった。

習熟度別指導について

- 「数と計算」領域では、習熟度別指導が大変効果的であることが分かった。習熟の程度に応じた教材を開発することで、習熟の十分な児童は更に伸ばすことができ、習熟が十分でない児童は、基礎・基本をじっくり身につけさせることができた。

2. 今後の課題

習熟度別指導に取り組むには、毎時間の児童の習熟の程度を確実に評価していかなければならない。毎時間の評価を正確にしかも負担にならないように行うにはどのような方法が効果的かについてさらに研究が必要である。

個に応じた指導のために、指導と評価の一体化を考えた評価補助簿（チェック表）をさらに工夫するとともに、支援に生かすために評価補助簿の効率のよい活用の仕方を考えること。

一人一人の児童にきめ細かな指導を行うために、今後も補充的な学習・発展的な学習の教材開発に取り組まなければならないが、開発した教材や資料等の効果的な保管、共有化を図り、全職員で研究を深めていく必要がある。

週に一回予定されている学年研修で打合わせを行っているが、日々の指導にかかわることであるため、その日を待ってられないことが多く、顔を合わせたときに打ち合わせをしているのが実情である。少人数指導や習熟度別指導をより効果的に進めるためには、定期的な打合わせ時間の確保が必要である

学力等把握のための学校としての取組

漢字力テスト・・・基礎学力の定着を図るため。学期1回（年3回）  
 計算力テスト・・・基礎学力の定着を図るため。学期1回（年3回）  
 標準学力検査（CRT）・・・児童の学力を把握するため。2月中旬実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第1回北大島地区学力向上推進協議会（H15.9.22：名瀬市役所）  
 第2回北大島地区学力向上推進協議会（H15.12.2：朝日小学校）  
 研究紀要（一年次のまとめ）の配布（H16.3月下旬予定）  
 第3回北大島地区学力向上推進協議会（H16.6月予定：名瀬市役所）  
 フロンティアスクール研究公開（H16.11月中旬予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校                      14年度からの継続校
- 【学校規模】                      6学級以下                      7～12学級  
    13～18学級                       19～24学級  
    25学級以上
- 【指導体制】                       少人数指導                       T・Tによる指導  
     一部教科担任制                      その他
- 【研究教科】                      国語                      社会                       算数                      理科  
    生活                      音楽                      図画工作                      家庭  
    体育                      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                       有                      無